

夕焼けのダイヤモンドヘッドを背景にボーンフィッシィング三昧 **October 19-23, 2003** 





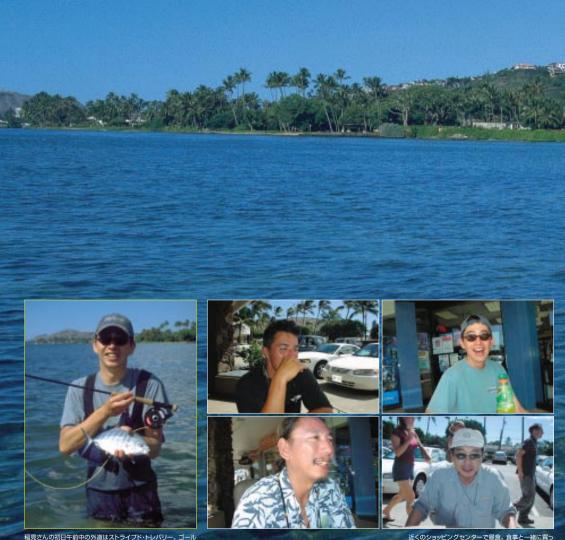
世捨て年長者ボーン探検隊はJTBの格安ツアーに便乗。 早朝に到着するも、当日の予定はなく水族館の見学も。



ワイキキの有名な記念撮影ポイントで。この浜にもボーンがたく さんいるらしいが、ここで釣りをするには勇気が必要。



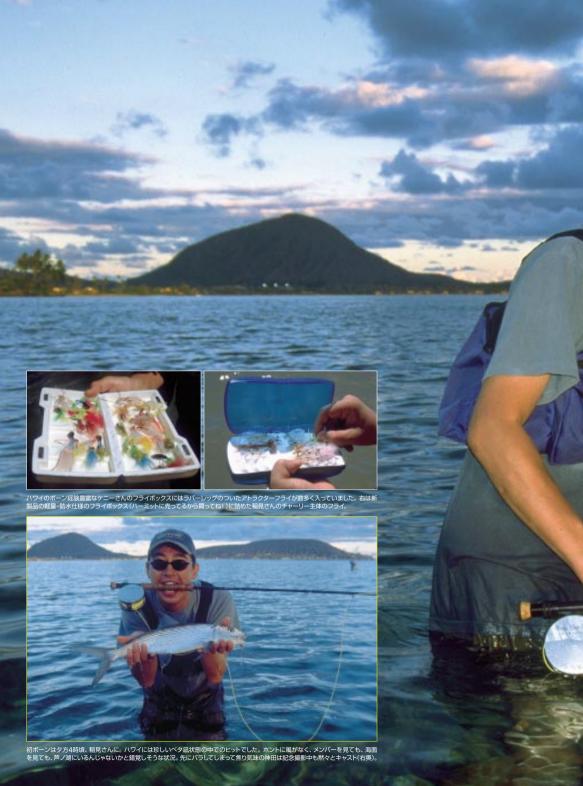
今回の釣りのコーディネイトをしてくれたケニー松田さんと。 ビールの消費量はいったい何リットルだったことやら。



稲見さんの初日午前中の外道はストライプド・トレバリー。 ゴール デントレバリーの黄色を青に置換したような魚。 ガイドのケビン も釣ったことがないという珍しい魚種でした。

近くのショッピングセンターで昼食。食事と一緒に買ったタコボキは、ケニーさん曰く「偽物のタコボキ」でしたが、神田にはなかなか美味でありました。









オジサンを手にするおじさん(店長、ゴメン)。予想 外のベタ凪状態ながら、タ方からは魚の活性が上 がったようで、いろんな魚種がフライを追うように なりました。

ガイドのケビンには「Syakuhachifish(R八フィッシュ)」で通じるヤガ ラくん(誰だ、訳のわからない日本語 を教えたの?)。ボーンの編件様は 有名ですが、ヤガラの場合も口をギ ュッと握ると同じまな稿が現れ す。どうやら観検集は、息苦しい時に 買っ赤になる人間の顔と同じみたい です。ちなみに、ボーンは泳いでい る時には縞模様がありません。





稲見さんの記念撮影から10分ほど後、神田にも小ボーンが。先にバラしているので、皆さんにヒンシュクを買わないように慎重に取り込みました。オアフは滅多に釣れない(ケビン・談)ペピーサイズでありました。

















苦労はいつかは報われる……。思わず顔がほころぶ店長に、皆つられてニッコリ。



二匹目のドジョウならぬボーンを求めて。意外に綺麗にラインが伸びているので本人もチョットびっくり。Thanks! 撮影 > 稲見さん









真っ暗になるまでボーン釣りを楽しみ、夕食にケビンお薦め の日本料理店「Izakava Nanbei」へ。「なん兵衛」というの が妙な名前だなぁ、なんて車中で話していたら、現地に着い て納得。「Nan」ではなく「Non」。つまり「居酒屋・呑兵衛」。

呑兵衛は板さんはじめ、ほとんどのスタッフが日本人で、味も 盛りつけも二重丸。おまけに呑んで食べてチップを含めても 200ドルとリーズナブル。お薦めのお店です。ちなみに、右側 のお姉さんは唯一の日本人以外のスタッフで台湾出身とか。 台湾語、北京語、英語、日本語を流暢に操るスーパーウーマン でありました。

宿泊ホテルからの夜景。この頃、WSでNYの松井が活躍中。





## Bone fish (Albula vulpes)

和名: ソトイワシ(カライワシ目)

淡水のニゴイと似ているけれど、ボーンの近縁種は意外に少 ない。フライの大物対象魚として有名なターボン(Tarpon: Tarpon atlantics)やイセゴイ(Pacific Tarpon: Megalops cyprinoides)などが仲間。孵化後、稚魚になる前に幼生期が あり、その後、稚魚に変態するのが特長。体重は10キロを超 えることは少ないが、超高速に一直線で泳ぐため、フライの 対象として特に有名。食味は悪いとされるが、ハワイでは練 り物用として珍重されるとか。ちなみに、ハワイでのレギュレ ーションサイズは14インチで、ハワイ名は"'O'io"。 図はイン ターネットから失敬してきたものだが、縞模様は泳いでいる 時にはみられない。捕獲後を描いたニセモノ描画。